

製品名: チューブリン γ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab19427

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	TUBG1
別名	TUBG1; TUBG; Tubulin gamma-1 chain; Gamma-1-tubulin; Gamma-tubulin complex component 1; GCP-1
遺伝子 ID	7283.0
SwissProt ID	P23258
免疫原	抗血清はヒトチューブリン γ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 386-435

背景

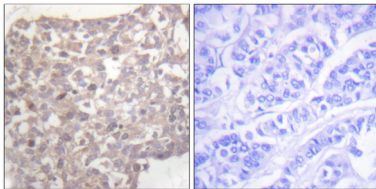
この遺伝子はチューブリンスーパーファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は中心体に局在し、 γ -

チューブリンリング複合体と呼ばれる複合体の一部として微小管に結合します。このタンパク質は微小管の核形成を媒介し、微小管の形成と細胞周期の進行に必須です。この遺伝子の擬遺伝子は7番染色体上にあります。[RefSeq 提供、2009年1月]機能: チューブリンは微小管の主成分です。γ-チューブリンは紡錘体極や中心体などの微小管形成中心 (MTOC) に存在し、微小管のマイナス端核形成に関与していることが示唆されています。質量分析: PubMed:11840567,類似性: チューブリンファミリーに属します。サブユニット: GCP2 および GCP3 と相互作用します。 B9D2 と相互作用します。

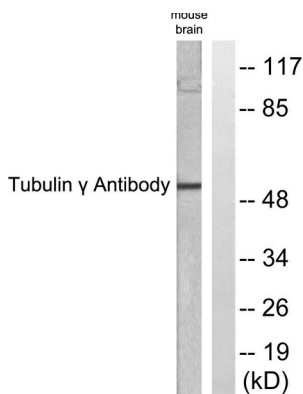
研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



チューブリンγ抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



マウス脳ライセートのチューブリンγ抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。